

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2390900021		
法人名	株式会社フレンズホーム		
事業所名	グループホームフレンズハウス古新町 ユニット1		
所在地	愛知県名古屋市長久区古新町二丁目72番地		
自己評価作成日	令和4年8月5日	評価結果市町村受理日	令和5年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2390900021-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2390900021-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長久区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年10月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策として、利用者様の体調管理でマスクの着用、施設内の定期的の空気の入れ替えや消毒を徹底しています。また感染症の理解を深める為定期的に施設内研修を行い、感染症発生時には迅速に対応が出来る様に努めています。</li> <li>・現在地域との関わりがコロナの影響があり、行事が開催されていませんが、夜間のパトロールは開催されている為、積極的に参加させて頂き地域の方との関係を築いています。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>現状の感染症問題が長期化している中で、地域で行われているサロン等への参加が困難になっている状況であるが、夜間パトロールについては中断することなくホームからの参加が行われており、地域の方との継続した交流の機会にもつながっている。運営推進会議についても、可能な限り継続する取り組みが行われており、会議に複数の地域の方の参加が得られていることで、地域の方との定期的な情報交換の機会にもつながっている。家族との交流についても困難な状況が続いているが、ホームで可能な範囲で面会の機会をつくったり、メール等を活用した情報交換を継続する等、家族との関係が途切れないような支援が行われている。また、職員間での意見交換を行いながら、利用者一人ひとりに合わせた支援につなげており、利用者の希望に合わせた食事の提供等につなげている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・ユニット毎に毎月会議を開催し、事業所の理念と固定理念、短期理念(三ヶ月毎に設定)を復唱し理念が達成出来たか評価し職員間で情報を共有し実践している。	基本理念を支援の基本に考えながら、各フロアで独自の理念をつくり、毎月の職員会議等を通じて理念の共有が行われている。また、フロア毎に目標をつくる取り組みも行われており、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・コロナウイルス感染症の影響もあり町内での一部の行事(いきいきサロン・町内カラオケ・秋祭り等)が中止になっているが、毎月一回の町内夜間パトロールに参加し町内の方との交流を図り情報交換を行っている。	地域で行われている夜間パトロール活動については、ホームからも職員が参加する取り組みを継続しており、地域の方との交流が行われている。また、地域で行われている「いきいきサロン」についても、今後の状況をみながら参加する意向でもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・コロナウイルスの影響もある為、施設訪問は制限している。利用者様との交流は殆ど出来ていませんが、町内で行われている夜間パトロールに職員が参加し、認知症に対する質問をされる際はお答えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・2か月に一度、運営推進会議を開催している。コロナウイルスの影響で緊急事態宣言が発令された場合は会議を自粛し書面上での報告を行う事もあります。また町内の夜間パトロールの際にも情報交換を行っています。	会議については、基本的に開催する方向で会議が行われている。会議の際には、複数の地域の方の参加が得られており、地域に関する活動の現状等、情報交換を行いながら、ホームの運営への反映につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	・区役所の担当者の方と連携や相談を密に取り合い情報や意見の交換を行い協力関係を築いています。	生活保護の方の受け入れが行われていることもあり、市担当部署との情報交換等が行われており、様々な改善等につなげている。また、地域包括支援センターとも運営推進会議の他にも家族介護に関する案内を受けて参加する等の取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・日中は玄関の施錠は行っていないが、夜間帯のみ防犯と安全確保の為施錠を行っています。また身体拘束の研修を3ヶ月に一度開催し拘束を行わない取り組みを行いサービスに繋げている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、出入口を利用者も開閉することができることで、職員間での見守りが行われている。また、利用者に関する情報交換を行う機会をつくり、職員間での情報共有や注意喚起等につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	・現在外部での研修は参加出来ていないが、施設内での虐待防止についての研修を開催し周知を行っている。身体拘束や虐待がない職場環境を目指しサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・現在権利擁護を利用されている利用者様が おられる為定期的に権利擁護に関する勉強 会を開催。ケアに取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている。	・契約時にご家族様やご本人様の要望や不 安事を伺い、当施設でのケアの方法を説明し 納得して頂いた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員 ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを 運営に反映させている。	・定期的にご家族様と連絡を取り、ご家族様 の意見や要望を伺いし対応を行っている。ま た施設ないの玄関に意見箱を設置をしてい る。	家族との交流が困難になっているが、面会 の機会をつくる等、交流を継続している。家 族からの要望等については、ホーム管理者の 他にも運営法人の事務局による対応も行わ れている。また、定期的な便りの他にも、メ ールを活用した情報交換も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見 や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・月に一度会議を開催し職員一人に対し議題 を一つ提案して頂き、施設の運営に反映して いる。また会議で言えない事や急ぎでの意見 がある職員に対しては意見の場を設けてい る。	ユニット毎に会議を行っている他にも日常 的にも職員間で意見交換を行う時間をつくり、 職員からの意見等を運営法人の事務局にも 報告し、ホームの運営や業務改善等につな げている。また、職員面談の時間をつくり、職 員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環 境・条件の整備に努めている。	・管理者を通じ、勤務状態や態度、やる気等 を事務局に報告し給与の水準に反映し職場 環境の改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている。	・施設内での研修の場を設け、少人数で定期 的に開催し職員一人一人のスキルアップ向 上やケアの内容・力量の把握に努めていま す。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させて いく取り組みをしている。	・コロナウイルスの影響もある為外部の研修 に参加出来ていない為外部との交流が出来 ていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・入居する前に情報収集を行っています。入居後に1週間24時間シートを使用し職員間で情報を共有しケアに繋げています。またコロナウイルスの影響もある為面会は規制していますが事前に予約をして頂いた場合は時間を設け面会をして頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・入居前から、ご家族様の不安や要望をお聴きしご家族様やご本人様に寄り添いながら関係を築けるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・入居前の施設、病院などから情報収集を行い、ご家族様からも状態を伺っている。またご本人様の要望や意見等もケアプランに取り入れご本人様の同意のもとで、必要に応じサービスを利用して頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・入所後他利用者様も含め一緒に生活していくもの同士信頼関係を築き協力しご本人様が出来る事を努め助けあって生活をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・入所後もご家族様と連絡、連携を取りながら共にご本人様を支援していき、ご家族様の面会時には、日頃の状態報告や情報交換を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・馴染みの方が面会に来られる機会は殆どありません。	現状、外部の方との交流が困難になっているが、利用者の中には入居前からの生活習慣を継続する等、馴染みの方との関係継続につながる取り組みが行われている。また、家族との外出についても、身内の方の葬儀に出かける等の機会がつけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・コロナウイルスの影響もある為、密を避け、利用者様が孤立しない様にレクリエーションを行う。利用者様同士が関わり合えるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・退去されてからも、ご家族様から何等かの相談事等があれば対応し支援をしています。こちらからの連絡は取れていません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・コロナウイルスの影響がある為日頃マスクの着用をしている。利用者様とのコミュニケーションを取る中で希望や意向の把握に努め、また利用者様の希望や意見を職員間で共有しケアに努めている。	職員間で利用者を担当する等、日常的な情報交換も行い利用者の意向等の把握等につなげている。また、毎月のカンファレンスも行われており、利用者や家族の意向等を検討し、定期的なアセスメントの実施や日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・入所前から情報収集を行っており、情報が足りない部分はご本人様やご家族様と連携を取りながら情報収集を行い記録残し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・一人一人の一日の様子を記録に残し、また毎日職員同士で日中、夜間の日頃の出来事等申し送りをし情報収集を行い現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・定期的にモニタリングを行いカンファレンスを行っています。利用者様、ご家族様の意見も伺い説明し同意を頂いた上でケアプランの作成、実施しています。	介護計画は、3か月での見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、日常的にも介護計画に関するチェック記録を残したり、担当職員も参加したモニタリングも実施しながら、利用者に関する変化等の把握につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・各利用者様の個別記録に一日の様子、情報(出来事)を記入しまとめ各利用者様毎にファイリングし職員間で情報共有をし、介護記録の見直しに取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・基本的に通院はご家族様へ依頼しているが急変時や必要に応じ対応をしている。また必要な物品などの購入は必要な時などは、お預かりしているお小遣いで施設の職員が購入しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・コロナウイルスの影響もあり地域のいきいきサロン、行事が中止になっているが、訪問理美容や訪問歯科、訪問マッサージ等は利用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・基本的に2週間に一度協力医療機関の主治医の往診を受けています。必要であれば入居前のかかりつけ医の往診を受ける事ができます。	協力医との定期的及び随時の医療面での連携が行われており、現状、全員の方が協力医をかかりつけ医としている。受診についても、職員による支援が行われており、健康状態に合わせた対応が行われている。協力医療機関の看護師との連携も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・2週間に一度協力提供医療機関の看護師に健康管理の為往診を受けています。現場の介護職員の気づきなどを看護師に報告相談をしアドバイスを頂き、利用者様の体調の変化に気づきケアを行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には介護サマリーを作成し、情報提供を行っています。現在コロナウイルスの影響もある為面会や退院時のカンファレンス等は出来ていませんが、ソーシャルワークとの情報交換を行い、状況把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・当施設では、医療行為や終末期ケアの対応を行っていない為、重度化する手前からご家族様や協力提供医療機関と相談し、ご家族様の意見のもと適切なケアの方針を決めています。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続できるように支援が行われているが、看取り支援は難しいことを家族にも説明が行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ね、運営法人の関連の有料老人ホーム等への移行支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・緊急時のマニュアルは作成しており、職員の把握に努めています。また定期的な緊急時の対応、正しき判断が出来るよう勉強会を施設内研修として行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・地震や火災、津波を想定した避難訓練を年に4回行っている。また災害時には地域の協力をお願いする方を決めてあります。	年4回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等が行われている。水害を想定した訓練も実施している。地域の方も協力関係づくりが行われている。また、水や食料等の備蓄品の他にも、発電機の設置も行われている。	地域の方とは夜間パトロール活動への参加等、継続した交流が行われている。ホームの取り組みが、非常災害時の連携にもつながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない様心掛けています。また職員間での情報交換を行う際は、個人の名前を出さない様情報交換を行っています。	理念には、利用者を尊重した対応を行う内容も掲げられており、職員による対応や言葉遣い等の意識向上にもつなげている。職員会議等の際には、利用者のプライバシーに配慮した対応も行われている。また、職員の接遇にもつなげる研修も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・利用者様の意志決定を優先し、意思表示が難しい場合には選んで頂くなどの支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・基本的な一日の流れは決まっていますが、一人ひとりの生活リズムを大切に、その日の体調などを考慮した上で一日を過ごすべく支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・ご本人様自身で選べる方は自身で選んで頂いていますが、自己にて選べない方に関しては職員と一緒に選んで頂く支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・好き嫌いを考慮した上で食事作りを行っています。また嚥下機能の低下により接種困難の利用者様に関しては、食事形態を変更し楽しく、美味しく召し上がって頂けるように支援をしています。	職員でメニューを考え、アレンジも加えながら、利用者の好みや嗜好等にも配慮している。おやつ作りや季節等にも合わせた食事作りも行われており、利用者もできることに参加している。また、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・当施設には管理栄養士がいない為職員間でメニュー作りを行っている。また栄養が偏らない様にメニュー作りには、気を付けています。食事量や水分は一日の記録に記載し摂取量を管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・起床時と毎食後に口腔ケアを行っており、自己にて出来ない方に関して介助に口腔ケアを行い、清潔を保っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	・排泄の記録を残し個々のパターンを把握に努めており、必要に応じ声掛けにて誘導するようにしています。また状況に応じリハビリパンツやパットの使用も検討しています。	利用者の排泄記録を残し、申し送り等も行いながら、一人に合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に、日中と夜間で排泄方法を変更する等、排泄状態の維持、改善に取り組んでいる。また、排泄に関する医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・起床時に氷水や牛乳など必要に応じ提供しています。また毎日の日課として体操やストレッチ、腹部マッサージを行い予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	・入浴の時間は決まっているが、順番を考慮するなど平等に入浴を楽しんで頂けるよう努めています。また利用者様の状況に応じ清拭対応を行っています。	利用者が週3回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方にも職員が交代して安心感を持って入浴につなげる等、定期的な入浴に取り組んでいる。1階のフロアにリフトの設置が行われており、身体状態の重い方への入浴支援も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・日中活動として、散歩やレクリエーションを行いお昼間に活動に過ごして頂き夜間睡眠をして頂けるように心がけています。また日中に臥床したい方は適度に休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・個々に薬情のファイリングなど、職員全員が関わり、薬の効果や副作用について把握に努めています。また処方箋の変更があった際は記録に残し職員全員に情報共有をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・利用者様毎に出来る範囲でお手伝い等の役割分担を行っており、気分転換に楽しんで頂けるように支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・コロナウイルスの影響もあり中々外出支援が出来ていません。また感染対策としてマスクの着用やアルコール消毒、うがい、手洗いのケアを行い快適かつ安全に暮らして頂けるように努めています。	感染症問題が続いていることや現状の職員体制もあり、医療機関への受診以外での外出が困難な状況が続いている。季節等にも合わせた花見や初詣等には、利用者とは出かける機会をつくっており、現状で可能な範囲で外出支援が行われている。	利用者の外出の取り組みが困難な状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況や職員体制も考えながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・必要とされている利用者様に関しては多少のお金をご自身で管理されています。また買い物に行ける方は同行して頂き自身でのおやつを購入されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・利用者様からは手紙や電話をすることは無いですが、3ヶ月に1回古新町たよりを(利用者様の状況報告)ご家族様にお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・リビングや玄関等に季節の飾り付けや行事の際の写真などを展示しています。ほかの場所には出来ていません。	リビングの窓が大きいこともあり、リビングは採光が良く、利用者は日中の時間を明るい雰囲気過ごしている。また、リビングや通路の壁面には、季節等にも合わせた飾り付けや利用者の作品の掲示が行われており、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・利用者様の関係を考慮しながら席の配置を行っています。また共用スペースにはソファールが置いてある為利用して頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・入居時際には、自宅で使い慣れた家具などを持ち込まれている利用者様も居られます。過ごしやすい空間になるようにしています。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類や好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、ベッドについては持ち込みとなっているが、ホームで保管しているベッドを使用している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・利用者様に分かり易いよう物の配置やトイレ、居室などに貼紙をしています。		